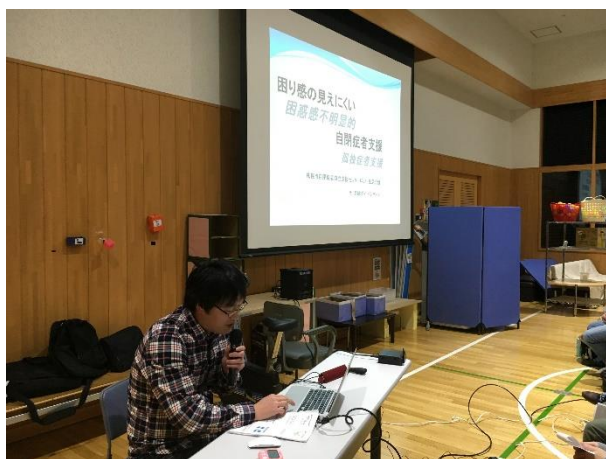


# 加藤のコラム

第10号（2016年3月）

## 実践発表コンクールが終了しました！



加藤です。「ジャイアンツファン歴＝生きている年月」である私は、野球賭博問題に心痛めつつ、それでも「こんなときこそ変わらず応援するのが真のファンである」というモットーのもと、ジャイアンツの優勝を心から願っております。



さて、この時期の私どもの法人の恒例イベント、それは「実践発表コンクール」であります。今年もゆいから、生活介護のスタッフである代朋超がエントリーしました。結果は見事2位入賞！実にうれしいです。彼は入職1年目のスタッフなのですが、この日の発表を迎えるまで、その準備や練習を一生懸命頑張っていた姿を目にしていたし、チームのメンバーも自分のこと以上に気にかけていたことも感じていましたので、そりゃもう素直にうれしいですね。

加藤の見た目の加齢ぶりは抗いようもなくなってきましたが、内面はまだまだ現役でいけるはずだと思込もうとしております。しかしながら、自分の子どもと同じくらいの世代の人たちがこういう実践発表を頑張っているのを見ると、いわゆる監督業とかプロデュース業の面白さに気付くのが年を重ねるといことなのかなと思うようになってきました。現役としても監督・プロデューサーとしても実に中途半端なレベルの人間なので、こんなことを語る資格はまったくないのですが、加齢も悪いことだけではないと思うようになってきたのはまさに加齢の証かもしれないけれど…。



高橋由伸監督には、荒波の中での監督業スタートになりますが、ぜひぜひ監督業の面白さを感じていただきたいと切に願っております。

文責：加藤 潔